

第2章 開催結果

1. 開催概要

(1) 参加対象者について

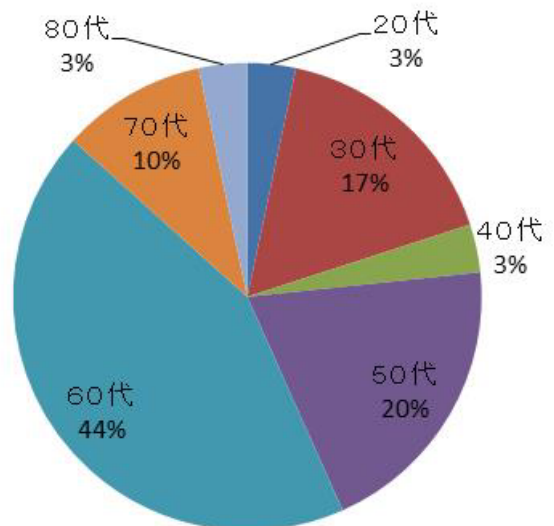
住民基本台帳から無作為抽出した20歳以上の石狩市民 1,000 名の方に、本事業への参加依頼を送付し、参加のご承諾をいただいた 38 名※を市民討議会参加対象者としました。

なお、1日目（9月15日）と2日目（10月6日）の両日ともに参加できることを条件とするとともに、議論には責任感を持って積極的に参加していただくため、有償（両日参加で5,000円）としています。

（※当日までに辞退された方がいたため、結果的に両日とも参加した参加者は30名となっています。）

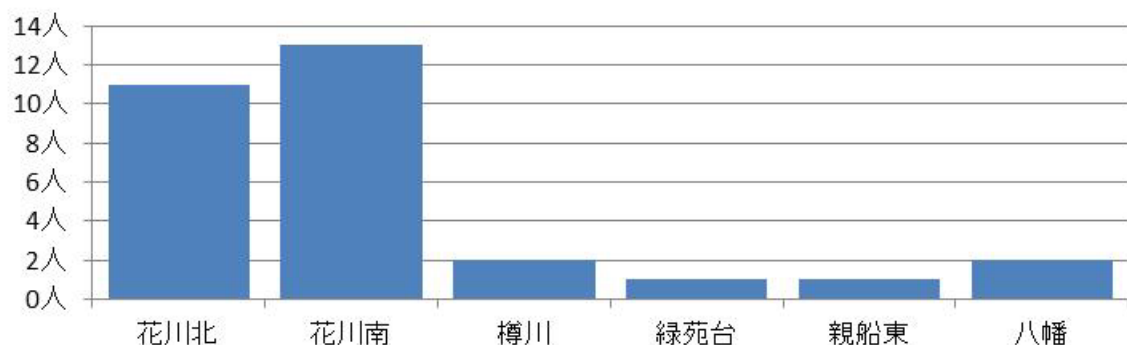
① 参加者の性別・年齢構成

区分	男性	女性	計	構成比
20代	1	0	1	3%
30代	4	1	5	17%
40代	0	1	1	3%
50代	2	4	6	20%
60代	7	6	13	44%
70代	2	1	3	10%
80代	1	0	1	3%
合計	17	13	30	100%
構成比	57%	43%	100%	



② 参加者の居住地

居住地	花川北	花川南	樽川	緑苑台	親船東	八幡	合計
人数	11	13	2	1	1	2	30
構成比	37%	43%	7%	3%	3%	7%	100%



(2) 討議テーマについて

討議テーマについては、今後の石狩のまちづくりを考えた際に欠かすことができない課題として「子どもたちの育ちのために」、「住みたいまち、住み続けたいまち」という2つのテーマを設定いたしました。「子どもたちの育ちのために」は、まちの未来を担っていく子どもたちが健全に、健やかに育ってくれることの大切さから、「住みたいまち、住み続けたいまち」は、多くの市民に「住まう」ための街としてこの石狩を選択し、居住し続けてもらうために何が必要か探ることが重要だとの観点から、それぞれ設定いたしました。

なお、2日目の討議テーマについては、1日目の討議結果を踏まえながら、それぞれの議論を深めることが出来るようなテーマ設定を検討することといたしました。

（３）討議の方法について

- ・ 1グループ4～5人のグループに分かれて討議を行いました。
- ・ グループ分けは初回の話し合いのみ事前に行い、2回目以降の話し合いでは前回の討議の際に「くじ引き」を行って決定しました。
- ・ グループメンバーの中から「進行」と「書記・発表」の担当を互選していただきました。また、青年会議所等のメンバーが補助者役として各グループに1名入り、進行補助を行いました。
- ・ 討議に先立ち、各テーマごとに情報提供を行い、参加者にはそれを元に討議を行っていただきました。
- ・ 情報提供終了後、各自の意見を付箋に記入し、それを元に意見交換を行っていただき、最後にはグループとしての意見を3つにまとめていただきました。また、もう一つ「残したい意見」を記載できることといたしました。
- ・ 討議終了後、グループごとに発表を行っていただいた後、参加者全員に良いと思うアイデアに投票していただきました。投票は各自持ち点5点、1つのアイデアに最高3点まで投票可といたしました。

時間（1日目）	時間（2日目）	内容
30分	35分	情報提供
10分	10分	自己紹介
20分	20分	討議・付箋への書き出し
15分	15分	付箋のカテゴリー分け、提案内容まとめ
15分	15分	まとめた内容の書き出し
25分	30分	各グループの発表
5分	5分	投票

（４）情報提供について

有識者や検討内容に関係する利害関係者、そして自ら公募に応募した参加者などによって構成される審議会やまちづくりに関する各種会合などとは違い、この市民討議会は、無作為抽出によって選出された一般市民が参加者となります。

そのため、討議内容に関する事前の情報提供が占める重要性は大きく、かつ討議内容や結

果に影響を及ぼすものと考えられます。

そこで、情報提供は討議テーマに即した形で、なおかつ公平性や客観性に留意しつつ、必要な情報が参加者に行きわたるよう、慎重に検討しなくてはなりません。

今回、1日目については、今日のまちづくりを考える上での基礎的条件として、人口動態の観点が重要であると考え、その第一人者である(株)日本総合研究所調査部主席研究員の藻谷浩介氏をお招きし、『10年後・20年後・30年後の石狩』と題する基調講演をいただくことといたしました。

これは、人口減少社会に転じた日本において、地域問題を考える際の基礎的データとして、人口動態に関する情報提供は不可欠と考えたからです。

なお、この藻谷氏の基調講演は市民討議会参加者以外にも広く周知を行い、多くの市民や関係者にもお聞きいただきました。

次に、各テーマに即した情報提供ですが、「子どもたちの育ちのために」については、行政の現場で保育の現場や子育て施策に長く携わってこられた、札幌国際大学短期大学部・札幌大谷短期大学部非常勤講師の高橋由紀子氏に、「住みたいまち、住み続けたいまち」については人口減少社会におけるまちづくりやコミュニティの在り方を研究しておられる、札幌市立大学デザイン学部教授の原俊彦氏に、それぞれお願いしています。

2. 討議結果

(1) 1日目の開催結果

① 実施概要

- ・日時 平成25年9月15日(日) 9:00~17:40
- ・会場 石狩市総合福祉センターりんくる 2階交流活動室
- ・プログラム

- | |
|--|
| 1. 開会 |
| 2. 主催者あいさつ 石狩市長 田岡克介
石狩青年会議所 理事長 治田智也 |
| 3. 趣旨および説明 |
| 4. 基調講演『10年後、20年後、30年後の石狩』
(株)日本総合研究所調査部主席研究員 藻谷浩介氏 |
| 5. 昼食・休憩 |
| 6. 第1回話し合い「子どもたちの育ちのために」
○情報提供
札幌国際大学短期大学部・札幌大谷短期大学部 非常勤講師 高橋由紀子氏
○グループ討議・まとめ
○発表・投票 |
| 7. 第2回話し合い「住みたいまち、住み続けたいまち」
○情報提供
札幌市立大学デザイン学部 教授 原俊彦氏
○グループ討議・まとめ
○発表・投票 |
| 8. 本日のまとめ |
| 9. 閉会 |

② 開催風景



石狩市長 田岡克介



(主催者あいさつ)

石狩青年会議所理事長 治田智也



(基調講演) ㈱日本総合研究所主席研究員 藻谷浩介氏



(情報提供)「子どもたちの育ちのために」
札幌国際大学短期大学部・
札幌大谷短期大学部非常勤講師 高橋由紀子氏



(情報提供)「住みたい街、住み続けたい街」
札幌市立大学デザイン学部 教授 原俊彦氏



(グループ討議の様子)



(各グループの発表)



(参加者による投票)

③ 討議テーマ1「子どもたちの育ちのために」

・グループ別のまとめ

グループ	順位	まとめの意見	票数
A	1	子ども同士の交流の場所	6
	2	親から子へ、大人から子へと視線を変える	4
	3	学校と地域の連携	2
	残	石狩での雇用促進にもっと力を入れる	5
B	1	道民の森のような施設。「海の森」といった施設	7
	2	移動図書館をあちこちに走らせて欲しい	6
	3	子どもへの声掛け（挨拶）は、大人が率先していく	5
	残	移住	3
C	1	地域のつながりを密にして、子どもを育てる社会	5
	1	学校以外で学ぶこともたくさんあるはず	5
	3	若い人が出会わなければ、子どもは増えない	1
	残	子どもたちにも、こうした話し合いの機会や場所を	4
D	1	音楽やスポーツなど、子どもの情報を発信	7
	2	子どもが遊べる環境づくり＝自分で遊べる力を身につける	6
	3	地域で子どもを育てる	0
	残	ガキ大将の育成	7
E	1	地の利、自然を活かしたまちづくり	14
	2	スポーツを通じ、子どものコミュニケーションを充実	7
	3	国際交流、歴史体験から石狩の地域を深める	4
	残	既存の宿泊施設を有効活用	1
F	1	安心して遊べる場所	9
	2	地域社会との交流	8
	3	新港企業への事業所見学	6
	残	行政サービスの改善	4
G	1	大人（お年寄り）と子どもたちの接点を作ろう	12
	2	子どもが参加できるイベントを作ろう	5
	3	行政施策の充実。ハード整備、エリア整備など。	3
	残	石狩の特色を活かした体験（畑づくり、米づくり、芋ほり等）	3

・意見の分類と得票率

意見の分類	グループ	得票	計	得票率
1. 子どもたちに様々な体験を				
地の利、自然を活かしたまちづくり	E	14	47	31%
道民の森のような施設。「海の森」といった施設	B	7		
音楽やスポーツなど、子どもの情報を発信	D	7		
スポーツを通じ、子どものコミュニケーションを充実	E	7		

学校以外で学ぶこともたくさんあるはず	C	5		
国際交流、歴史体験から石狩の地域を深める	E	4		
石狩の特色を活かした体験	G	3		
2. 地域のチカラで、子育てを				
地域	F	8		
新港企業への事業所見学	F	6		
石狩での雇用促進にもっと力を入れる	A	5		
行政サービスの改善	F	4	30	20%
移住	B	3		
行政施策の充実。ハード整備、エリア整備など	G	3		
既存の宿泊施設を有効活用	E	1		
3. 多様な交流による、学びを				
大人（お年寄り）と子どもたちの接点を作ろう	G	12		
子ども同士の交流の場所	A	6	28	19%
移動図書館をあちこちに走らせて欲しい	B	6		
子どもたちにも、こうした話し合いの機会や場所を	C	4		
4. 遊びによる、学びを				
安心して遊べる場所	F	9		
ガキ大将の育成	D	7	27	18%
子どもが遊べる環境づくり＝自分で遊べる力を	D	6		
子どもが参加できるイベントを作ろう	G	5		
5. 健全な育みのために				
子どもたちへの声掛け（あいさつ）	B	5		
地域の繋がりを密にして、子どもを育てる社会	C	5		
親から子へ、大人から子へ	A	4	16	11%
学校と地域の連携	A	2		
地域で子どもを育てる	D	0		
6. 子育て以前の課題として				
若い人が出会わなければ、子どもは増えない	C	1	1	1%
合 計		149	149	100%

・ 情報提供者からのコメント

- ・ 今あるリソースを活かした取り組みが必要。
- ・ 発表の中から、子どもたちとのコミュニケーションが求められていると感じられた。
- ・ 「子どもたちに誇れる街」や「子どもたちが夢を描ける街」といったことが共通のキーワードではないか。
- ・ 今日この場から、その一歩が始まると感じた。

④ 討議テーマ2「住みたいまち、住み続けたいまち」

・グループ別のまとめ

グループ	順位	まとめの意見	票数
A	1	交通の利便性と料金	11
	2	除雪支援・流雪溝の設置	4
	3	雇用の場づくり	3
	残	空き家のデータベース化	6
B	1	シェアハウス	6
	2	地域の雇用、高齢者雇用の促進	5
	3	老後の趣味の交流とその場づくり	3
	残	15年前、石狩は緑も店も多く素晴らしいと感じたが・・・今は札幌指向	2
C	1	交通網の充実、コミュニティバス	9
	2	港や立地条件という、石狩の強みを活かす	3
	3	「弱者目線」「コンパクト」な行政施策の充実	1
	残	農業機械なども駆使した除雪対策	1
D	1	都市施設・機能の充実	12
	2	除雪対策の充実	9
	3	LRTなど、車が無くても楽しめる「まちのブランド」づくり	5
	残	空き家を活かした、お年寄りが楽しく暮らせるまちづくり	4
E	1	娯楽・文化施設がなく、交流の場所の確保が課題	7
	2	鮭の遡上見学や観光施設など、石狩の魅力を発信しては	4
	3	交通の便が悪い	3
	残	公共料金・税金が高い。雪の事も積極的に取り組むべき	5
F	1	除雪体制の充実、バリアフリー化	9
	2	LRTの設置	5
	2	市立大学・専門学校の設置、卒業生の市内優先就職	5
	残	給食等、高齢者に優しいまちであって欲しい	2
G	1	除雪・交通網の充実	8
	2	石狩の産業の活性化	6
	3	訪問医療の充実	1
	残	水道料金が高い。料金体系の見直しを。	4

・意見の分類と得票率

意見の分類	グループ	得票	計	得票率
1. 交通について				
交通の利便性と料金	A	11	33	23%
交通網の充実、コミュニティバス	C	9		
LRTなど、車が無くても楽しめる「まちのブランド」	D	5		
LRTの設置	F	5		

交通の便が悪い		E	3		
2. 除雪について					
除雪対策の充実		D	9	31	22%
＊除雪対策の充実、バリアフリー化		F	9		
＊除雪・交通網の充実		G	8		
除雪支援・流雪溝の設置		A	4		
農業機械なども駆使した除雪対策		C	1		
3. 都市機能					
都市施設・機能の充実		D	12	21	15%
娯楽・文化施設がなく、交流の場の確保が課題		E	7		
以前は石狩が素晴らしいと思ったが、現在札幌指向		B	2		
4. 経済・雇用					
石狩の産業の活性化		G	6	19	13%
地域の雇用、高齢者雇用の促進		B	5		
市立大学・専門学校の設置、卒業生の市内優先就職		F	5		
雇用の場づくり		A	3		
5. 高齢者と暮らし					
シェアハウス		B	6	12	8%
老後の趣味の交流とその場づくり		B	3		
給食等、高齢者に優しい街であってほしい		F	2		
訪問医療の充実		G	1		
6. 行政への要望					
＊公共料金・税金が高い。雪の事も積極的に		E	5	10	7%
水道料金が高い。料金体系の見直しを		G	4		
「弱者目線」「コンパクト」な行政施策の充実		C	1		
7. 空き家対策					
空き家のデータベース化		A	6	10	7%
空き家を活かした、お年寄りが楽しく暮らせるまち		D	4		
8. 地域資源の活用					
鮭の遡上や観光施設など、石狩の魅力発信		E	4	7	5%
港や立地条件という、石狩の強みを活かす		C	3		
合 計			143	143	100%

・情報提供者からのコメント

- ・各チームの共通性が高いことが興味深い。
- ・多いのは「交通の問題」と「除雪の問題」と伺われる。
(交通)
- ・交通の問題で、ニワトリが先か卵が先か、という話ではあるが、人口が減っていく所に新しい交通をもってくるのは難しい。

- ・交通は「大規模」で解決されることもある。
- （除雪）
- ・札幌市でも年間 200 億円。まったく画期的な方法をこのまちから発信できたら凄いことと思う。
- （雇用機会）
- ・日本の人口移動の7割は就業機会であると言われている。
- ・是非、雇用創出を検討してみると良い。文化的な催し物、文化的施設、コミュニティカフェなど。
- （警察署など）
- ・警察署など大きな施設が欲しいということは分かる。何故ないのか、という点も考えてみると良い。
- （石狩の物を買おう）
- ・非常に良いと思う。住民運動として起こしてもいいと思う。
- ・「バイ・アメリカン」転じて「バイ石狩」など。

（2）2日目の開催結果

① 実施概要

- ・日時 平成25年10月6日（日） 9：00～17：00
- ・会場 石狩市総合福祉センターりんくる 2階交流活動室
- ・プログラム

1. 開会
2. 第1回話し合い「石狩流・コミュニティビジネスとは」
～地域の人と資源で商品（雇用）開発&地域内循環～
○まちの事例紹介 石狩市役所 中西章司氏
○情報提供 (株)K I T A B A代表取締役 酒本宏氏
○グループ討議・まとめ
○発表・投票
3. 第2回話し合い「子どもに伝える、石狩の心」
～地域が、自分たちが、子どもに出来ること～
○まちの事例紹介 石狩青年会議所副理事長 中林義雄
○情報提供 札幌市立大学デザイン学部 講師 片山めぐみ氏
○グループ討議・まとめ
○発表・投票
4. 第3回話し合い「石狩の冬を快適に過ごすために」
～克雪・親雪・利雪の観点から～
○まちの事例紹介 石狩市建設水道部都市整備課長 青木雅俊氏
○情報提供 一般社団法人北海道開発技術センター理事 原文宏氏
○グループ討議・まとめ
○発表・投票
5. 本日のまとめ・答申案のとりまとめについて
6. お礼の言葉 石狩青年会議所副理事長 中林義雄
7. 閉会

② 2日目の討議テーマ、情報提供の検討について

2日目の討議テーマは、1日目の2つの討議テーマをそれぞれ発展させた4テーマを設定することを予定していましたが、1日目の討議内容や経過、結論などを検証した結果、2日目の話し合いは3テーマとし、当初の予定より情報提供や討議の時間を多く設けることといたしました。

〈1日目の討議テーマと2日目の討議テーマ設定の関連〉

・「子どもたちの育ちのために」から

各テーブルに共通して多く見られた問題意識は、子どもたちが健全に成長するためには、いわゆる「勉強」以外の多様な経験が必要なのではないか、ということであり、その多様な経験のための資源は地域にたくさんあり、かつそれら地域の様々な資源に触れることが、子どもたちの健全な郷土愛を育むということでした。

このことから、その議論をさらに深めていただくため、「子どもに伝える、石狩の心。」というテーマを設定しています。

・「住みたいまち、住み続けたいまち」から

本テーマでは、「除雪」、「交通」、「医療」、「高齢化」、「都市機能」、「雇用」など様々な視点から意見が出され、その中でも特に「除雪」と「交通」は、各グループに共通してみられた課題提起でした。

「交通」については、人口減少社会において大規模な新交通システムの構想を想定するのが困難なことから、仮に検討を行う場合は石狩市域のみではなく、札幌都市圏全体を見通す必要があることから、本討議会では、大規模な新交通システムの議論を行うよりも、今後の様々な地域課題をできるだけ身近なコミュニティで解決していく方法としての「コミュニティビジネス」に焦点を当てたテーマ設定を行うことといたしました。なお、このテーマ設定は、「医療」、「高齢化」、「都市機能」、「雇用」など、1日目の討議で見られた多様な問題意識も同時に視野に収めることができるのではないかと考えました。

「除雪」については、地域課題として様々な対処方法も期待できることから、もう一つのテーマとして設定することにいたしました。

〈情報提供について〉

情報提供については、石狩の中での取り組みの紹介である「まちの事例紹介」と、当該テーマに関する総括的な情報提供である「情報提供」の2本立てといたしました。これは、テーマについて具体的に、かつ親近感を持っていただくための「まちの事例紹介」と、テーマに関する全体的な見取り図を提供する「情報提供」の双方によって、情報提供に幅と深みを持たせよう企画いたしました。

・第1回話し合い「石狩流・コミュニティビジネスとは」



(まちの事例紹介)
石狩市役所 中西章司氏



(情報提供)
㈱K I T A B A 代表取締役 酒本宏氏

・第2回話し合い「子どもに伝える、石狩の心」



(まちの事例紹介)
石狩青年会議所副理事長 中林義雄



(情報提供)
札幌市立大学デザイン学部講師 片山めぐみ氏

・第3回話し合い「石狩の冬を快適に過ごすために」



(まちの事例紹介)
石狩市建設水道部都市整備課長 青木雅俊氏



(情報提供)
(一社) 北海道開発技術センター理事 原文宏氏

③ 討議テーマ1「石狩流、コミュニティビジネスとは」

・グループ別のまとめ

グループ	順位	まとめの意見	票数
A	1	代行サービス業	3
	2	訪問サービス業	3
	3	(空き家等を利用して)食堂、レストラン、カフェ等の営業	1
	残	海上レストラン、川の上レストラン	11
B	1	道の駅の設立によるビジネス場所	9
	2	地域農業の生産システムの確立	7
	3	小学校低学年の子供の学び舎（高齢者の活用）	5
	残	空き家住宅の有効活用	4
C	1	広報活動を展開し、(コミレスなどの)周知を	5
	2	きずな方式の拡大・増殖を試みて欲しい!	3
	3	(コミレスが)花川北地区にも欲しい	1
	残	地域・現在にあったきずな方式を展開したい	2
D	1	観光資源を集約したスポット	8
	2	人と人との支え合いを進めるビジネス (子育てサロン、介護サロン、子ども・要介護者の一時預かり等)	4
	3	コミュニティビジネスへのサポート体制	1
	残	自然環境を育てるソーシャルビジネス	6
E	1	遊休農地の積極的な貸付。	11
	1	遊覧船等、茨戸川や石狩川の観光化。	11
	3	TDLや商業施設等の誘致。	3
	残	趣味で作ったものを公共施設等で販売。	2
F	1	コミセンや小中学校の活用。	10
	1	趣味などを通じた交流	5
	3	魅力のある人が集まる	0
	残	経験者が人財を育成	10
G	1	高齢者のノウハウを活かした何でも屋さん	10
	2	伝統を後世に伝える	6
	3	イベント等を地域の力で発展させる	3
	残	渡船場や観光拠点をつくる	6

・意見の分類と得票率

意見の分類	グループ	得票	計	得票率
1. 人も施設も、今あるものを活かして				
コミセンや小中学校の活用	F	10	51	34%
経験者が人財を育成	F	10		
高齢者のノウハウを活かした何でも屋さん	G	10		

伝統を後世に伝える		G	6		
小学校低学年の子供の学び舎		B	5		
空き家住宅の有効活用		B	4		
イベント等を地域の力で発展させる		G	3		
趣味で作ったものを公共施設等で販売		E	2		
(空き家等を利用して) 食堂、レストラン、カフェ等の営業		A	1		
2. 石狩の魅力をも、発信					
海上レストラン、川の上レストラン		B	11	36	24%
遊覧船等、茨戸川や石狩川の観光化		E	11		
観光資源を集約したスポット		D	8		
渡船場や観光拠点をつくる		G	6		
3. 身近なことから、小商いを					
広報活動を展開し、(コミレスなどの) 周知を		C	5	27	18%
趣味などを通じた交流		F	5		
人と人との支え合いを進めるビジネス		D	4		
代行サービス業		A	3		
訪問サービス業		A	3		
きずな方式の拡大・増殖を試みて欲しい		C	3		
地域・現在にあったきずな方式を展開したい		C	2		
(コミレスが) 花川北地区にも欲しい		C	1		
コミュニティビジネスのサポート体制		D	1		
4. ビジネスチャンスは、農にあり					
遊休農地の積極的な貸付		E	11	18	12%
地域農業の生産システムの確立		B	7		
5. 新しい施設で、誘客を					
道の駅の設定によるビジネス場所		B	9	12	8%
TDLや商業施設等の誘致		E	3		
6. その他					
自然環境を育てるソーシャルビジネス		D	6	6	4%
魅力のある人が集まる		F	0		
合			計		
			150	150	100%

・情報提供者からのコメント

・「コミュニティビジネス」は、地域の課題から考えるとわかり易い。

・「きずな」のような地域食堂を核として、訪問サービスや便利屋など地域の暮らしをサポートするものの必要性が見えてきたのでは。また、地域の日常サービスが欲しいという意見もあった。

・観光という視点では、「道の駅」のような観光拠点から新しいビジネスが生まれるのではないか。

- ・子育て支援の視点で、小学校にあがってからの支援をビジネス化する考えもある。
- ・地域力は、子どもと高齢者の力が鍵となる。
- ・地域の人材を活用し、コミュニティビジネスを進めるためには、時に行政の支援も必要となる。

④ 討議テーマ2「子どもに伝える、石狩の心」

・グループ別のまとめ

グループ	順位	まとめの意見	票数
A	1	自宅を地域の子どもたちに開放	3
	2	既存の施設の利用	2
	3	あいさつを積極的に	1
	残	親の意識改革	5
B	1	高齢者との交流	3
	2	ガキ大将の養成、社会に通用する育成	3
	3	地域での子育て、子育て特区の設置	1
	残	自然体験。川・海・農地の活用	5
C	1	石狩劇団の旗揚げ	9
	2	小学校対抗石狩新聞コンテスト	6
	3	石狩の郷土史の語り部の育成	2
	残	大人のふるさと探検隊	15
D	1	大人が石狩の自然などをすばらしさを知る	7
	2	親子で体験ツアー	4
	3	資源の広報化	3
	残	最新施設、設備についても知らせたい	8
E	1	石狩ガイドを育成し、バスツアーを行う	8
	2	大人も子供も、石狩を知ることから始める	5
	3	石狩検定のような資格制度を作る	3
	残	石狩市の神社・仏閣やお祭りの起源などを学ぶ	11
F	1	小学校を通じて、歴史を伝承する	9
	2	石狩の海、畑は食の宝庫	2
	2	自然との融合、防風林を活用した勉強	2
	残	もっと石狩の歴史を知ろう	12
G	1	石狩・厚田・浜益合同祭の開催	12
	2	石狩の歴史・産業・自然環境を伝え、郷土愛を育む	6
	3	町内会と学校など、子どもと地域との連携	3
	残	親も石狩の歴史を学ぶことが大切	3

・意見の分類と得票率

意見の分類	グループ	得票	計	得票率
1. 石狩の歴史・文化・自然を、学ぶ				
もっと石狩を知ろう	F	12	98	64%
石狩・厚田・浜益合同祭の開催	G	12		
石狩市の神社仏閣や祭りの起源などを学ぶ	E	11		
小学校を通じて、歴史を伝承する	F	9		
石狩劇団の旗揚げ	C	9		
最新施設、設備についても知らせたい	D	8		
石狩ガイドを育成し、バスツアーを行う	E	8		
小学校対抗石狩新聞コンテスト	C	6		
石狩の歴史・産業・自然環境を伝え、郷土愛を育む	G	6		
自然体験。川・海・農地の活用	B	5		
資源の広報化	D	3		
石狩検定のような資格制度を作る	E	3		
石狩の郷土史の語り部の育成	C	2		
石狩の海、畑は食の宝庫	F	2		
自然との融合、防風林を活用した勉強	F	2		
2. 親や大人自身が、学ぶ				
大人のふるさと探検隊	C	15	39	25%
大人が石狩の自然などのすばらしさを知る	D	7		
親の意識改革	A	5		
大人も子供も、石狩を知ることから始める	E	5		
親子で体験ツアー	D	4		
親も石狩の歴史を学ぶことが大切	G	3		
3. 地域やお年寄りから、学ぶ				
自宅を地域の子どもたちに開放	A	3	9	6%
高齢者との交流	B	3		
町内会と学校など、子どもと地域との連携	G	3		
4. 身近な生活から、学ぶ				
ガキ大将の養成、社会に通用する育成	B	3	4	3%
あいさつを積極的に	A	1		
5. 地域総がかりで、子育て				
既存の施設を利用	A	2	3	2%
地域での子育て、子育て特区の設置	B	1		
合 計		153	153	100%

・情報提供者からのコメント

・子どもに伝えるためには、まず自分たちがまちを知ることが大切だと思う。

- ・合併によって幅が広がった地域の資源も、まだ十分に共有できていないのではないか。
- ・テーマの「石狩の心」を伝える手法としては、庭先に子どもを招き入れたり、語りべの育成、「石狩検定」などの制度を考えることも面白いと思う。
- ・海から陸を見るなど、普段見慣れない景色は自分たち住んでいるふるさとを実感することができる。
- ・人と人の語り合いの中から、まちを笑顔にするような意見が出てくるもの。

⑤ 討議テーマ3「石狩の冬を快適に過ごすために」

・グループ別のまとめ

グループ	順位	まとめの意見	票数
A	1	氷室や冷房など、雪の利用	6
	2	除雪体験ツアー等、観光資源化	4
	3	冬場の遊び場所	2
	残	学習を兼ねた、学生の除雪ボランティア	4
B	1	除排雪に関するマナーの周知徹底	15
	2	雪を利用したイベント・観光事業	4
	3	農水畜産物の貯蔵に活用	3
	残	冬季循環バス	7
C	1	排雪を利用した夏期のスキー場、スノーモービル、貯蔵庫など	10
	2	雪のホテル	5
	3	冬期間のみ、独居者の共同生活	2
	残	教育の一環として、中学生に除排雪を義務化する	8
D	1	中高生による除雪隊	12
	2	公園内に子ども向けすべり台作成	4
	3	ワカサギ釣りの観光化。雪集積場をスキー場、すべり台として解放	3
	残	除雪の回数増、除雪路の駐車禁止	8
E	1	かまくら、馬そりなど、利雪イベント	4
	2	スキーのリサイクル、スケートリンク	3
	3	石狩の除雪レベルの維持	1
	残	交通網の改善	2
F	1	コミュニティビジネスとしての除雪隊の設置。	10
	2	緊急避難場所を兼ねた道の駅の建設	9
	3	高規格道路、監視カメラ等、厚田・浜益の交通対策	4
	残	除雪費を稼ぐ	7
G	1	除排雪の充実、除雪特区のまち	6
	2	雪のイベント、歩くスキー	5
	2	雪を利用した水力発電	5
	残	除排雪へのモラル周知、限界集落の集合	3

・意見の分類と得票率

意見の分類		グループ	得票	計	得票率	
1. 除排雪について						
除排雪に関するマナーの周知徹底	B	15	40	26%		
除雪の回数増、除雪路の駐車禁止	D	8				
除雪費を稼ぐ	F	7				
除排雪の充実、除雪特区のまち	G	6				
除排雪へのモラル周知、限界集落の集合	G	3				
石狩の除雪レベルの維持	E	1				
2. 観光資源化						
雪のホテル	C	5	25	16%		
雪のイベント、歩くスキー	G	5				
除雪体験ツアー等、観光資源化	A	4				
雪を利用したイベント・観光事業	B	4				
かまくら、馬そりなど、利雪イベント	E	4				
ワカサギ釣りの観光化。雪集積場をスキー場に。	D	3				
3. 学生の元気を、除排雪に						
中高生による除雪隊	D	12	24	15%		
教育の一環として、中学生に除排雪を義務化する	C	8				
学習を兼ねた、学生の除雪ボランティア	A	4				
4. やっかいな雪を、しっかり利活用						
排雪を利用した夏期スキー場、貯蔵庫他	C	10	24	15%		
氷室や冷房など、雪の利用	A	6				
雪を利用した水力発電	G	5				
農水畜産物の貯蔵に活用	B	3				
5. 冬の交通網対策						
緊急避難場所を兼ねた道の駅の建設	F	9	22	14%		
冬季循環バス	B	7				
高規格道路、監視カメラ等、厚田・浜益の交通対策	F	4				
交通網の改善	E	2				
6. 暮らしの中で、考える						
コミュニティビジネスとしての除雪隊の設置	F	10	21	14%		
公園内に子ども向けすべり台作成	D	4				
スキーのリサイクル、スケートリンク	E	3				
冬場の遊び場所	A	2				
冬期間のみ、独居者の共同生活	C	2				
合		計		156	156	100%

・情報提供者からのコメント

- ・数多くの提案の中から、1歩行動を起こして行けば良い。
- ・雪捨て場を「遊び場」にしようとするアイデアは良い。
- ・公園は地域の雪捨て場になることが多いため、あらかじめ雪の捨て方を決めればちょっとしたスキー場も出来る。
- ・雪の無い国の人を雪捨て場に連れくるような観光メニューも面白いのではないか。
- ・企業から除雪ボランティアを出してもらうような仕組みは、企業にとって地域との繋がりができる。
- ・雪や寒さを上手く使った例では、アイスホテル（フィンランド）、雪の教会（トマム）などの成功例も多い。
- ・北海道の冬の暮らしは、厳しさばかりでなく、雪国特有の文化・ライフスタイルとして捉えていくことも大切だと思う。